

付二 連合通信問題

783 昭和6年3月19日 在ハルビン八木(元八)総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

ハルビン連合特派員が中国無線局から大連宛
電送を拒絶されたことについて

ハルビン 3月19日後発
本省 3月19日後着

第三一號

當地聯合特派員ハ中國無線局ニ依リ大連宛電報ヲ送ラント
セル處同局ハ南京ヨリ命令アリ聯合ノ電報ハ受附クル能ハ
ストテ拒絶セル趣ニテ抗議方本官ニ願出アリタリ然ルニ南
京政府ノ右命令ハ當地ノミナラス各地ニ發セラレタルモノ
ト想像サレ且右發令ニ至リシ経緯ハ本官ニ於テ承知セス又
聯合ハ長春迄電話ニ依リ電報發送ニ差支ヘナキ爲右抗議ハ
見合セ居ルニ付此際本官ニ於テ何等措置ヲ執ル必要アラハ
御電報アリタシ
公使、奉天、南京へ轉電セリ

784 昭和6年4月3日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

外交部は連合通信の差止めを訓令した事実な
き旨言明について

南京 4月3日後発
本省 4月4日前着

第一八二號

代理公使發閣下宛電報第二九六號ニ關シ
外交部側ハ本件ヲ外交問題トセス解決ヲ計ル建前ニテ我方
官憲トノ交渉ヲ出來得ル丈ケ避クル様努メ居リ他方外交部
及當地聯合トモ強硬ニ自説ヲ固持シ讓ラサル爲今以テ解決
セサル次第ナル處ニ日夜當地日本記者一同本官ヲ來訪シ中
國側ハ愈各地ニ訓令シ各地トモ一齊ニ聯合發受電ヲ差止ム
ルコトナリタリ事此處ニ至リタル以上日本新聞記者ノ共
同ノ問題トシテ國民政府ト戰端ヲ開クヨリ外ナシトノ意見
ニ一致シタルニ付諒解アリタキ旨興奮シテ述ハタルニ付本
官ハ先ツ右ノ如キ情報ノ眞偽及先方ノ肚ヲ確メタル上對策
ヲ考究スル要アリトノ趣旨ヲ述ヘ自重スル様注意シ一同モ
納得シテ引取りタルカ三日本官外交部ニ赴キ確メタルニ外

交通部ヨリ聯合ノ通信差止方各地ニ訓令セルカ如キ事實ハ絶
對ニナク又關係各院部ニ尋ネタルモ右様ノ事實ハナキ模様
ナリトテ本件否認ノ態度ヲ執リ尙聯合ノ出様如何ニ依リテ
ハ南京ノ問題モ速ニ解決シタキ意嚮アル次第ヲ仄カシタル
處本官ハ當地聯合ニ對シ此機會ニ解決ヲ計ル様努力スヘシ
トテ必要ノ指圖ト注意トヲ與ヘ置キタルカ聯合モ右方針ニ
テ進ムコトナレリ

右聯合ノ通信差止ノ件ハ誇大ニ報道セラルル惧アルニ付右
御參考迄

公使ヨリ上海へ轉報アリタシ
支、北平、奉天へ轉電セリ

785 昭和6年4月7日 上海日本記者團より
幣原外務大臣宛(電報)

國民政府の不法な言論圧迫に対し日本政府に
おいて速に外交的解決方希望について

上海 4月7日後発
本省 4月7日後着

在上海日本新聞記者團ハ國民政府ノ不法ナル言論壓迫ニ對

シテ特ニ總會ヲ開キタル結果左ノ如キ申合セヲ爲セリ閣下
ニ於テモ記者團申合ヲ諒トセラレ速ニ之カ外交的解決ヲ圖
ラレンコトヲ希望ス

申 合

國民政府ノ在支外人ニ對スル不法行爲ハ枚擧ニ遑アラス就
中言論機關ニ對スル不當壓迫ハ常識ヲ以テ解スヘカラサル
モノアリ邦字新聞ノ輸送禁止不法差押及無斷沒收等ヲ行ヒ
甚タシキハ通信妨害ノ非違ヲ敢テスルニ至レリ殊ニ最近胡
漢民事件ノ發生スルヤ南京駐在ノ全日本新聞通信記者ノ電
話ヲ遮斷シ更ニ理由ヲ明示セスシテ新聞聯合社ニ對シ支那
全國ニ於ケル電信電話ノ使用ヲ禁止シ以テ日本ノ言論機關
ヲ迫害セリ斯ノ如キ暴舉ヲ默視スルハ言論界ノ屈辱タルノ
ミナラス國家ノ威信ヲ傷クルコト大ナリ吾人ハ茲ニ結束シ
テ立ち國民ノ輿論ニ訴ヘ國民政府ノ横暴ヲ匡シ吾人ノ權利
ヲ擁護セント欲ス

786 昭和6年4月8日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

連合南京通信員の更迭を条件に連合差止め問題解

決との情報司意向について重光代理公使宛報告

南京 4月8日後発
本省 4月8日後着

第一九二號

本官發代理公使宛電報

第一六一號

大臣宛往電第一八二號ニ關シ

八日胡世澤ト會談ノ際本官ヨリ聯合ノ問題ニ觸レタルニ胡ハ自分モ何トカ本件ヲ穩健ニ解決シ度ク考慮シ居タル次第ナル處唯今入手セル情報ニ依レハ上海ノ日本記者團ハ本件ニ關スル事實ヲ故意ニ捏造シ國民政府ヲ攻撃セル聲明書ヲ發表シタル趣ニテ頗ル外交部ノ情報司ノ心證ヲ害シ本件ノ解決ヲ複雜化セシメタリ情報司ハ右聲明書ニ對シ更ニ何等カノ措置ヲ執ル必要アリトテ協議中ナリト答ヘタルニ依リ本官ハ右聲明書ナルモノハ未タ見サルニ付何等意見ヲ述ヘ得サルカ問題ノ處理ヲ簡單ナラシムル爲聯合ノ問題ト聲明書ノ問題トヲ別個ノモノトシテ解決スルコト適當ナルヘシト述ヘタルニ胡ハ刁情報司長ト協議ノ結果右解決方法ニ同意シ聯合佐々木ニ付テハ從來屢次ノ警告ニ拘ラス依然國民

787 昭和6年4月8日

在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

問題を荒立てないように南京日本記者団を注意についで

上海 4月8日後発
本省 4月9日前着

第三七六號

南京發閣下宛電報第一八二號ニ關シ

南京記者團ヨリ聯合ノ問題ニ關シ種々陳情ヲ受ケタルカ其口吻ヨリ察スルニ彼等ハ當地記者團ノ應援ヲ得テ民國政府ニ對シ最後の手段ニ訴フルノ意嚮ナルヤニ認メラレタルニ付本官ハ上村ノ斡旋ニ依リ外交部ニ於テハ聯合トノ間ニ事ヲ穩便ニ濟ス意嚮ナルヤニ察セララルル次第ナレハトテ此際荒立テサル様懇々注意シ置キタリ

北平、奉天、南京へ轉電シ上海へ轉報セリ

788 昭和6年4月8日

在上海村井総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

連合發電差止め問題への対応に関し内情報告

政府ニ不利ナル無根ノ通信ヲ發表シタルノミナラス衛戍司令部側ノ調査ニ依レハ反動分子トノ往來繁ク結果ヨリ見テ勢ヒ之等ニ利用セラレタルコトナリ首都駐在ノ通信員トシテ好マシカラサル人物ナルニ依リ聯合力自發的ニ南京通信員ヲ更迭セシムルニ於テハ直ニ聯合ノ電話差止めヲ解除シ完全ニ本件ノ解決ヲ見タルモノト認ムヘク聲明書ノ問題ハ別ニ處理スヘキ旨言明セリ(尤モ胡ノ話ニ依レハ情報司

長ハ聯合ヨリ先ツ詮證文ヲ取りタル上佐々木ヲ更迭セシムヘシトノ說ナリシカ胡ニ於テ右條件ノ通ニ斡旋セルモノナル由尙南京以外ノ聯合ノ通信ヲ阻止シタルコトナシト言明セリ)依テ本官ハ本件ハ單ニ貴司長トノ間ニ友人トシテ話シタル迄ニテ公ニ之ヲ取り上ケタル次第ニアラス即チ本件ニ關スル外交部ノ意向ヲ個人的ニ御伺ヒシタルニ過キサルニ付右御承知置キアリタシト述ヘ右先方提出ノ解決條件ニ關シテハ議論スルヲ避ケ置キタリ

右貴代理公使ノ御參考迄

上海へ轉報アリ度シ

大臣、北平、奉天ニ轉電セリ

について

上海 4月8日後発
本省 4月9日前着

第一四一號

南京發閣下宛電報第一八二號ニ關シ

南京駐在邦人記者團ハ本件國民政府ノ通信妨害ヲ共同ノ問題ナリトシ言論擁護ノ決議ヲ爲スト共ニ(右決議ハ百部以上モ刷リ内地及民國各地ノ關係方面ニ配布セル由)七日聯合ノ佐々木及電通ノ小林ハ南京記者團代表トシテ右決議ヲ齎シテ來滬シ當地邦人側記者團ニ右經過ヲ報告セル結果上海側ニ於テモ豫テ邦字新聞ノ郵送禁止及不法差押等ノ不當壓迫アリシコトトテ右南京側ノ決議ニ響應スルニ決シ右申合ヲ貴大臣各政黨總裁及内地新聞關係團體ニ電報セル趣ナリ

右ニ關シ八日聯合結束ノ語ル所ニ依レハ同社ノ發電差止ハ廣ク中國内地各地ヘモ内命アル模様ナリシニ付餘リ中國側ト抗争シ居ル時ハ無電裝置ヲ探索セララルル虞モアリシヲ以テ佐々木ノ更迭位ニ依リ速ニ圓滿解決ヲ計リタキ所存ニテ一應事情聽取ノ爲佐々木ヲ呼寄せタルニ同人等ハ前記決議ヲ

齋シテ上海ニ來リシ様ノ次第ナルノミナラス本社ヨリハ同通信員ノ行動ヲ無條件承認スル旨ノ激勵の來電サヘアリ事茲ニ至リテハ成行ニ任スヨリ外ナカルヘキ旨述ヘ居タリ
公使ヘ轉報シ、北平、奉天、南京ヘ轉電セリ

789 昭和6年4月9日

在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

連合問題に対する外交部側の空気が悪化し佐々木記者の更迭より他策なき次第について

南京 4月9日後発
本省 4月10日前着

第一九六號

代理公使宛拙電第一六一號ニ關シ

往電第一八二號本官外交部當局ト談合セル際ハ外交部側ノ空気が従前ニ比シ可ナリ緩和シ穩便ニ本件ヲ解決セントノ意嚮充分ニ見ヘ佐々木發電ノ虚報ノ一例トシテ「黃紹雄ハ南京聯合記者ニ對シ廣西問題ニ關スル中央トノ交渉ハ決裂セル旨語レリ云々」(二月四日上海新聞報所載)ノ記事ヲ指摘シ黃紹雄ハ佐々木ニ會ヒタルコトナク且内容モ全然事實

ヨリ外ナント言ハシムルニ至レル次第ナリ

右内情前電補足迄ニ追報ス

公使ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

支、北平、奉天ヘ轉電セリ

790 昭和6年4月10日

在上海村井總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

佐々木更迭による事態解決策紛糾の様相について

上海 4月10日後発
本省 4月10日後着

第一四七號

在南京領事發重光代理公使宛電報第一六一號ニ關シ

十日右來電ノ趣旨ヲ當地聯合ノ結束ニ申聞ケ置キタル處結東モ上村胡談合ノ如ク聯合ノ問題ト聲明書ノ問題トヲ切離シ解決スルヲ得策ト認メタルモ直ニ佐々木ヲ更迭スルコトハ決議ノ手前モアリ且ツ佐々木ノ行爲ニ格別非難スヘキ點ナキニ願ミ面白カラストテ躊躇ノ色アリシヲ以テ本官ヨリ一案トシテ聯合側ヨリ國民政府ニ對シ佐々木ノ措置ハ何等不當ナリト認メサルモ中國當局ニ於テ同人力反動分子ト往

ニ反スルノミナラス蔣主席ハ記事ヲ見折角ノ交渉ヲ故意ニ破壊セントスル惡宣傳ナリトテ嚴重取締方外交部ニ申越シタル事實アリ依テ之等ノ點ヲ中心トシ佐々木ニ於テ然ルヘク陳謝セハ本件モ解決シ得ラルヘシト述ヘタルニ依リ右ノ次第ヲ佐々木ニ申聞ケタル處佐々木ハ實ハ上海ニハ「黃紹雄ハ中國記者ニ斯々語レリ」ト電話ニテ話シタル處自分ニ直接語レル様發表セラレタル次第ニテ其點ハ確カニ間違ナル處幸ヒ中國側ノ友人モ外交部側ノ空気が緩和セリト本件斡旋ヲ引受ケ呉レタル者アルニ付右方針ニテ情報司側ト穩便解決方懇談スル様依頼スヘシトテ引取りタルカ其後無斷ニテ上海ニ赴キ宣言書ヲ發表スルニ至レル次第ニテ其内情ハ佐々木トシテハ此際穩健ニ解決シタキ意嚮ナルモ自餘ノ特派員等ハ斯クテハ今後同様ノ問題自分等ノ上ニ降りカカ

ル虞アルニ依リ此際ハ聯合ヲ犠牲ニシテモ日本政府ヲシテ強硬ニ中國側ニ抗議セシメ依テ將來ノ禍ヲ絶チ置カントノ考ヨリ無理ニ佐々木ヲ道連レトシタルモノナル模様ナリ然ルニ折角緩和セル外交部側ハ今回ノ宣言發表等ヲ以テ一ニ佐々木ノ指嗾ニ依ルモノト看做シ佐々木ニ對スル空気が頓ニ惡化シ冒頭往電ノ通本件解決ニハ佐々木ヲ更迭セシムル

來シ自然之ニ利用セラルルヤニ疑ハレ居ル趣ナルカ右毛聯合トシテ爾信セサルモ中國當局モ信賴セサル通信員ヲ置クハ業務上支障アルニ付佐々木ハ自發的ニ更迭スヘシト申入レ(通信解禁ノコトハ決議ノ手前アルヲ以テ之ニ觸レス)國民政府ハ之ニ通信禁止ヲ解クコトトシ解決ヲ計ルコトトシテハ如何斯クセハ佐々木ノ顔モ立チ又佐々木ノ行爲ヲ支持スル建前ナレハ必スシモ決議ニ背クト云フヲ得サルヘシト申聞ケタルニ結束モ贊成シ其趣旨ニテ解決方本社ニ請訓スヘシトテ辭去セルカ今十日其後ノ成行ヲ結束ニ尋ネタルニ上村領事カ南京ニテ佐々木サヘ更迭セシムレハ解決ノ見込アリト語ラレタルトカニテ佐々木ハ大ニ激昂シ其間他ノ記者連ノ策動モアリ事態紛糾ヲ來セル模様ニテ前記本官ノ暗示セル解決案モ未タ本社ニ打電シ居ラサル模様ナリ何等御參考迄

代理公使ニ轉報シ北平、奉天、南京ニ轉電セリ

791 昭和6年4月12日

在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

連合問題に關し事態の紛糾計り難きにつき連

合本社に佐々木の召還方求めたきについて

上海 4月12日後発
本省 4月13日前着

第三七八號

南京發本官宛電報

第一七〇號

往電第一六一號ニ關シ

當地日本記者連ハ殆ト連日本官ヲ來訪シ若シ聯合ノ問題ニ付姑息ナル解決方法ヲ講センカ今後中國側ノ日本記者ニ對スル壓迫ハ愈激シクナルヘキニ付此際ハ聯合ヲ犠牲ニスルモ差支ナキヲ以テ中國側トノ一切ノ妥協的話合ヲ止メ從來中國側ノ日本新聞ニ對スル壓迫ノ事實等ヲ擧ケ聯合ノ問題ノ無條件解決ヲ計ルト共ニ今後斯カル不法手段ニ出ツルヲ防止スルニ足ル解決ヲ中國側ヨリ取付クル様強硬ニ交渉アリタキ旨ヲ陳情シ尙若シ近ク交渉有利ニ展開ノ模様見エサル場合ニハ記者團トシテハ更ニ第二第三ノ手段ニ訴ヘ中國側ヲ威嚇シ以テ我方交渉ヲ後援スヘキ旨述ヘ居ルニ付本官ハナルヘク彼等ノ感情ヲ緩和スル様仕向ケ居ルモ此儘ニシテ推移センカ彼等ハ如何ナル非常識ナル行動ニ出テ事態ヲ

本官發在支公使宛電報第一七八號

大臣發南京宛電報第一二九號ニ關シ

御打合ノ通十五日胡世澤ト會見シ本官ヨリ右大臣來電ノ趣旨ヲ體シ本件ノ解決遷延シタル爲今日迄隱忍ヲ重ネ來レル我記者團ヲ著シク激昂セシメ日本内地ノ大新聞モ結束シテ立ち爲(ニ)我方ノ輿論モ漸次強ク之ヲ後援スル様傾キツツアリ此儘ニテ放置センカ容易ナラサル事態ヲ現出スヘシ御承知ノ通我方ノ輿論ハ漸次南京政府ノ建設的努力ヲ理解シ極メテ同情的態度ヲ示シ來リ中國側亦之ニ響應シタル爲兩國ノ關係モ漸ク圓滿トナリ來レルニ斯カル問題ニテ極端ニ我方ノ輿論ヲ惡化セシムルハ兩國國交ノ爲眞ニ惜ムヘキコトナリ本件ニ付テハ日本政府ニ於テモ右輿論ノ趨向ニ鑑ミ重要視シ居ル次第ナルニ付テハ貴方ニ於テモ之カ解決方法ニ付テハ兩國國交ノ大局ヨリ慎重考慮セラレシコトヲ望ムトノ趣旨ヲ述ヘ更ニ同日王家楨ト會談ノ際モ本官ヨリ本件ノ經緯ヲ説明スルト共ニ胡ニ對スルト同様ノ話ヲ爲シ置キタリ

尙聯合佐々木本官ヲ來訪シ本社ヨリ中國側カ無條件解決ニ同意セハ今次ノ事件ハ水ニ流シ南京政府トノ親交ヲ回復ス

紛糾セシムルヤ計リ難キニ付事情聽取ノ爲其他適當ナル口實ノ下ニ聯合本社ヲシテ佐々木ヲ召還セシメ(其間上海ヨリ一時的ニ出張セシムルモ可ナリ)一時氣ヲ抜キタル上新特派員ヲ派遣シ本件ニ尙付クルコト適當ナルヤニ思料セラル

尙往電第一六一號胡世澤申出ノ次第ハ佐々木ヲ召還セル事實ヲ外交部ニ通告スルカ如キ必要ナク特派員ヲ代ヘタル事實サヘアレハ差支ナシトノ意味ナルニ付御含ミ置キアリタシ
尙亦王正廷ハ膠濟鐵道ノ會議ニ出席ノ爲木曜若ハ金曜當地發一週間位ノ豫定ニテ青島ニ赴ク由ナリ

792 昭和6年4月15日 在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)

胡世澤と会見兩國々交の大局より連合問題の解決を申し入れについて

南京 4月15日後発
本省 4月15日後着

第二一二號

ルニ咨カナラサルモ條件付解決ニハ同意セサルニ付右ノ次第日本官憲ヲ通シ中國側ニ通セラレタシトノ電報アリタルニ付然ルヘク御取計アリタキ旨申出テタリ右不取敢
上海へ轉報アリタシ
大臣へ轉電セリ

793 昭和6年4月18日 在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)

連合問題に対する日本国内の策動暫時見合せ
る様措置方配慮ありたきについて

上海 4月18日後発
本省 4月18日後着

第四〇五号

南京發本官宛電報第一七八號ニ關シ
民國側ハ累次ノ警告ニモ拘ラス南京聯合發電ハ依然事實ヲ誤リ特ニ南京政府ニ不利ナル情報多キヲ認メ佐々木ニ接近シ居ル人物ヲ調査シタルニ(日本通信員ハ多數ノ中國人謀報者ヲ使用シ謀報者ノ情報ヲ其儘電報シ居ルコトハ外交部モ充分承知シ居レリ)所謂反動分子多キコト明瞭トナリタ

ル由ニテ佐々木ヲ通信員トシテ南京ニ留ムルハ南京政府ノ好マサル所ナリトノ決意ヲナスニ至レル次第ナルカ其後ノ了解運動ニ依リ外交部側モ讓歩シ甚タシク蔣主席ヲ怒ラシタル廣西問題ニ關スル電報中「黃紹雄聯合記者ニ語ル云々」ノ一節ヲ中心トシテ釋明陳謝スル程度ニテ本件ヲ解決シ差支ナシトノ意嚮ヲ洩シタル次第アリ（南京發閣下宛電報第一九六號）佐々木モ黃紹雄ニ面會セル事實ナク右ハ誤ナリシコトヲ自認シ居ル次第ナリシカ佐々木ハ他ノ通信員ノ勸誘モアリ記者團聯盟ノ聲明書ヲ發シテ南京政府攻撃ノ舉ニ出テタル爲外交部ヲシテ極度ニ怒ラシメ一旦決意セル穩健解決策ヲ拋棄セシムルニ至レル次第ナリ今日ノ場合ニ於テハ日本通信員側ニ於テ（ニテ）今少シク冷靜トナリ運動ヲ中止セサレハ解決ノ見込ナキ有様ナルカ聯合ノ東京通信ハ或ハ各社聯合ノ大會ヲ開キ決議セリトカ即時無條件解決方王正廷ニ電報セリトカ外國通信社ト聯合シ輿論ノ喚起ニ努メツツアリトカ或ハ外務省ハ之ニ強硬交渉方電訓セリトカ盛ニ當方面ニモ宣傳の通信ヲ送り居ル處事情右ノ如クナルニ依リ外交部トシテモ此空氣ノ下ニ到底無條件解決ニ應スル筈ナク從テ斯ル宣傳ハ事態ヲ愈紛糾セシメ解決ヲ遷延セシムル止スル方法ハ特派員ヲ追放スルカ通信機關ヲ差止ムルヨリ外ナキヲ以テ差當リ後者ノ手段ニ出テタルモノナリ然ルニ聯合ハ自己ノ非違ヲ蔽ヒ宣傳ト團體ノ力トヲ以テ横車ヲ押シ通サントシ有ラユル策動ヲ爲シツアル次第ニテ若シ南京側カスル脅喝ニ依リ無理ヲ聞キタル形トナランカ將來彼等ハ何ヲ仕出カスヤ寒心ニ堪ヘス右ハ外交部側ノ者ノ等シク考ヘ居ル點ニシテ從テ本件ニ對スル外交部側ノ意向ハ彼等ノ策動毎ニ強硬ノ度ヲ加ヘ解決ヲシテ愈々困難ナラシメツツアル次第ナリ若シ日本側ニ解決ノ誠意アラハ之カ解決ノ方法ハ當然日本側ニテ考慮スヘキ筋合ナリト答ヘタリ依テ本官ハ新聞特派員ノ任務ヨリ時ニ誤報アルハ已ムヲ得サル次第及佐々木ノ發電ヲ詳カニ調査シタルカ差シテ甚タシキ謠言モ見當ラス從テ之ニ對シ通信ヲ差止ムルカ如キ過激手段ニ出テタルヲ容認シ得サル次第等ヲ納得ノ行ク様説明シタル上通信社ノ生命タル通信ヲ差止ムルコトノ如何ニ重大事ナルカ又之ニ依リ如何ニ我方ノ輿論ヲ刺戟シ兩國ノ關係ニ惡影響ヲ及ホスヤ等各般ノ方面ヨリ説明シ本件ヲ此ノ儘トシ置クコトノ兩國關係ノ爲不利ナル次第ヲ長時間ニ亘リ説明シ本件ハ我方ニ有利ニ解決スルノ措置ト零圍氣トヲ

ノミナラス一般ノ空氣ヲ極度ニ惡化スルニ至ルヘク又新聞記者煽動ノ裏面ニハ反外務省又ハ反政府ノ相當入込ミタル計畫モアル模様ナリ右御合ノ上聯合等ノ策動ハ暫ク見合ハスル様適當措置方御配慮アリタシ
南京、上海ニ轉報セリ

794 昭和6年4月22日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

連合通信問題に関する外交部空氣險惡化の状況につき王外交次長の談話

南京 4月22日後発
本省 4月23日前着

第二二九号

貴電第一一四號ニ關シ（南京政府聯合壓迫事件）

廿二日本官王外交次長ト會見シ右貴電ノ趣旨ニ依リ我方ノ立場ヲ説明シ其ノ考慮ヲ求メタル處王ハ只今御話ノ要點ハ聯合社長其他ヨリ部長及自分ニ對シ電報シ來レルカ抑々本件ハ南京聯合カ頻リニ南京政府ニ不利ナル謠言ヲ宣布シ累次ノ警告ニモ拘ラス改悛ノ情少シモ見エサルニ依リ之ヲ阻

作ルニ努メタルカ王ハ本件ノ未解決カ兩國ノ國交ニ惡影響ヲ及ホス點ニ付テハ本官ト同様頗ル憂慮シ居ル次第ナルカ既ニ新聞側ニテ挑戦ヲ宣言セル以上中國側ニテ之ニ無條件ニテ降服スルカ如キハ到底出來得サル次第ナルト共ニ之カ解決モ極メテ困難トナリタル次第ニ付此點ハ日本側ニテモ充分考慮セラレタク自分モ部長等ト更ニ良ク相談シ置クヘキ旨ヲ述ヘタルニ付本日ハ之以上話スモ效ナシト考ヘ右ニテ話ヲ一應打切り更ニ會見スルコトセリ右ニ依ルモ御推察ノ通外交部側ノ空氣ハ以前ヨリモ一層險惡ナルニ付先ツ之カ緩和ヲ圖ルニアラサレハ速急ノ解決困難ト認メララル代理公使ヨリ上海ヘ轉報アリタシ
代理公使、北平、奉天ヘ轉電セリ

795 昭和6年4月23日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

連合問題に關し地方的問題として取り扱い方
困難となりつつある状況について

南京 4月23日後発
本省 4月23日後着

第二三〇號

漢口發閣下宛電報第二九號ニ關シ

外交部側ハ聯合ノ件ヲ單ニ南京佐々木ノミノ問題ト爲シ從テ全國的ニ聯合ノ機關ニ壓迫ヲ加フルカ如キ事無シト稱シ居ルニ付本官モ先方ノ釋明ヲ其儘信スル態度ヲ採リ一ハ右ヲ先方ノ言質トシテ利用シ他方斯クスル事ニ依リ問題ヲ成ル可ク局限シ置ク様配慮シ來レル次第ナルカ外交部側ハ日本新聞ノ宣傳ニ對抗スル爲公使發閣下宛電報第四〇七號ノ如ク聯合ノ虛報ノ實例トシテ單ニ南京支局ノミナラス各地聯合ノ發電ヲモ蒐集發表シ南京ノミニ局限セラレタル問題ヲ全國的ノモノニ擴大スルノ形勢ヲ馴致シツツアリ現ニ江華本ノ如キハ最近本官ニ對シ日本新聞カ本件ヲ大袈裟ニ扱ヒ出シタル爲外交部ニ對シ外部(黨部方面ヲ意味スルモノノ如シ)ヨリノ壓迫モ加ハリ南京ノミノ地方的小問題トシテ取扱フ事困難トナリツツアリト洩セル次第モアリタルニ付本官ハ廿二日王家楨ニ對シ本件ニ關スル話合ヲ爲シタル際本件交渉ニ關スル經緯ヲ詳細説明シ單ニ南京支ノ問題ナル事ヲ納得セシムルト共ニ解決ヲ容易ナラシムル爲少クモ直ニ南京以外ノ聯合ニ對シテモ事實上加ヘラレツツアル通

本官發支宛電報

第二一九號

外交部ヨリ四月廿五日附覺書ヲ以テ代理公使宛大要左ノ通中越セリ

三月一日ノ上海日日新聞ニハ國民會議ヲ以テ御用會議トナシ又蔣介石ハ國民會議ヲシテ自己ヲ大總統ニ推選セシメ張學良ヲ擧ケテ副總統トナサントス等ノ語アル處右ハ事實ヲ虛構スルモノニシテ其意ノ存スル處ハ中國ノ擾亂ニ在リ查スルニ在華日本新聞及通信社カ不實ヲ記載セル事件ニ關シテハ曩ニ外交部ヨリノ照會ニ對シ客年十二月廿四日附ヲ以テ貴公使ヨリ戰時中ハ各方面ノ情報ニ或ハ事實相違ノ點アリシモ右ハ決シテ故意ニ擾亂セントスルモノニ非ストノ回答アリタリシカ今回又復日日新聞ニ於テ種々荒唐無稽ノ記載ヲ爲スハ故意ニ謠言ヲ造ルモノト思ハルルニ付日日新聞ニ轉筋シテ爾後記事ニ關シ特ニ注意ヲ加フル様致サレタシ原文郵送ス

上海へ轉報アリタシ

大臣、北平、奉天へ轉電セリ

七 排日ボイコット問題

信差止メノ如キハ各地ノ誤解ヲ速ニ解キスル不法壓迫ヲ止

ムル様取計方話シ王モ異議ヲ稱ヘサリシカ尙廿三日ニハ江華本ニ對シ冒頭漢口來電其他ノ事實ヲ擧ケ從來ノ言質通り直ニ各地ノ通信妨害ヲ止ムル様嚴重掛合ヒタル處江ハ早速交通部ニ傳達シ各地ノ誤解ヲ解ク様致スヘキ旨答ヘタリ右ノ通外交部側ハ今尙本件解決ヲ容易ナラシムル爲地方的小問題トシテ取扱ハントスル從來ノ態度ヲ維持シ居ル次第ナルカ今後日本新聞ノ運動尙繼續スルニ於テハ勢ヒ問題ヲ擴大スルノ虞アリト存セラル公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

支、北平、奉天、哈爾濱、漢口へ轉電セリ

796 昭和6年4月26日

在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)

外交部が三月一日付上海日日新聞の記事に対し抗議の旨重光代理公使宛通報

南京 4月26日後発 本省 4月26日後着

第二四八號

797 昭和6年5月17日

在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)

国民党党部の連合通信に対する態度硬化の状況に鑑み問題の急速解決困難なる状況について

上海 5月17日後発 本省 5月17日後着

第四五五號

貴電第一六九號ニ關シ

聯合ノ問題ニ付テハ本官歸朝ノ際岩永ノ意嚮ヲモ質シ置キタル次第ナルカ歸任後王部長並ニ主任官タル刁情報(司)長ト會見ノ際兩三度ニ亘リ本件ノ圓滿解決方交渉シタルカ(最近ノ交渉ハ十五日王部長及情報司長ト會見)本件ニ關スル先方ノ意嚮ハ極メテ強硬ニシテ其趣旨トスル處ハ本官及上村ヨリ既ニ大体報告ノ通ナルカ聯合ハ度々ノ注意ニモ拘ラス中央政府ニ不利益ニシテ事實ニ反シタル通信ヲ繰返シタルニ付南京上海間電話ノ使用ヲ一時禁止シタル次第ナルカ其後折角解決ノ下話假ニ成立シタルニモ拘ラス急ニ右ノ話ヲ中止シ更ニ本社其他ト一致シテ民國政府ニ對スル組織的攻撃ヲ開始シタル爲妥協ノ途ナクナレル次第ナリ若シ

聯合ニシテ其非ヲ認め且責任者タル南京通信員ノ更迭ヲ爲シ誠意ヲ披瀝スルニ於テハ民國政府ハ直ニ其處置ヲ取消ス意嚮ナリ尤モ聯合ノ態度惡化シタル爲メ黨部ハ非常ニ憤慨シ各地ニ於テ聯合ニ對抗スル處理ヲ執リ居レルカ如シ但シ前記ノ如ク聯合ニ於テ妥協的態度ヲ執ルニ於テハ外交部ヨリ黨部ニ對シ其態度緩和方ヲ慫慂スルコトヲ得ヘキモ今日迄聯合ノ上海及南京方面責任者ヨリハ何等申出モナシ民國政府ト雖聯合等ノ通信社ト事ヲ構フルヲ欲セサルモ右ハ已ムヲ得サル處ナリト言フニ歸着ス

本官ハ右支那側説明ニ對シテハ聯合首腦部トシテハ飽迄民國政府ニ對シ好意的態度ヲ持シ其建設的事業ニ貢獻セントノ意向ヲ有スルハ本官歸朝ノ際確メタル所ニシテ出先通信員力時トシテ民國政府ノ意向ニ合セサルコトアリトスルモ右ハ通信社トシテハ已ムヲ得サルコトモアリ何レニスルモ本件ニ付双方ニ於テ餘リ主張ニ走り妥協ノ精神ヲ逸スルコトハ日華ノ大局上ヨリ自分ノ贊成セサル所ナレハ聯合ノ責任者ヲ引見シ充分意見ヲ交換サレテハ如何トノ趣旨ヲ説明シ隱忍解決ノ必要ヲ力説シタリ先方ハ(脱?)今日迄唯其關係者ヲ糾合シ「ルーター」迄ヲモ動カシ極端ニ中國側ヲ

木の自発的転動にて事態解決の意向について

南京 6月30日後発
本省 6月30日後着

第三九九號

在支代理公使發閣下宛電報第四五五號ニ關シ

三十日日本官江華本ニ面會シ(刁情報司長不在)聯合ノ電報拒否ニ關スル哈爾濱來電ノ趣旨ヲ説明シ解禁令發令スル様依頼シタル處江ハ本件ハ其後日本新聞記者ノ造謠及宣言發表等ノ爲メ上村領事ニ御話セルトキ(往電第二三〇號)トハ解決餘程困難トナリ單ニ佐々木一個人ノ問題ニハアラスル状態トナレル次第ハ既ニ御承知ノ通ナルカ後刻刁司長トモ相談ノ上本件ノ圓滿ナル解決方盡力スヘシト語レルカ其後江カ刁ト相談ノ結果ナリトテ本官ニ語ル所ニ依レハ外交部トシテハ聯合社カ本件ニ付遺憾ノ意ヲ表シ將來造謠ヲ爲ササルヘキ旨ヲ約シ自發的ニ(本件解決トハ別ニ)佐々木ヲ他ニ轉勤セシムルニアラサレハ一切ヲ水ニ流スコト困難ニテ右ハ既ニ王部長ト日本新聞記者トノ共同會見(佐々木ハ缺席)ニ際シ部長ヨリ御話シ置キタル筈ナリトノコトナリ何等御參考迄

攻撃セントシ誠意ノ認ムヘキモノナキモ責任者ノ情報司長トノ間ニ意見ヲ交換スルハ差支ナシトノコトナリ右ハ度々ノ話合ノ要點ニテ民國側ノ態度往電第三六八號ニ依リ御承知ノ如ク國民政府最高幹部ニ於テモ本問題ニ關聯シ日本新聞通信ノ態度ヲ問題ニシ居ル際ナレハ外交部以外ノ筋ニモ説得ニ努メ居ル次第ナリ然レトモ民國側ノ態度ハ黨部トノ關係モアリ事態今日ノ如ク惡化シタル爲メ非常ニ強硬ニシテ殊ニ黨部方面ノ態度甚タシク硬化セル爲メ假令此際佐々木ヲ召還スルモ果シテ外交部カ黨部ヲ抑ヘ各地ニ於ケル聯合妨害ヲ止メシメ得ルヤ疑念ナキ能ハス兎ニ角漸次良好ナル空氣ヲ作りテ(此點ニ付テハ日本側自身ニ於テモ充分努力ノ必要アリ)解決ヲ期スルヨリ外ニ急ニ解決スルコト或ハ困難ナルヤニ存セラル何レニスルモ機會アル毎ニ適當處理スル積リナルカ今日ノ狀況不取敢回電ス上海、南京へ轉報セリ

798 昭和6年6月30日

在南京太田領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

連合問題に關し中國側は連合の遺憾表明、佐々

代理公使ヨリ上海へ轉報アリタシ

代理公使、北平、奉天、吉林へ轉電セリ

799 昭和6年9月10日

在中国重光公使より
幣原外務大臣宛(電報)

古野連合外信局長の外交部に対する陳謝によ
り連合問題解決を見たるについて

上海 9月10日後発
本省 9月11日前着

第八九一號

一、聯合問題ニ關シテハ八日古野ニ對シ必要ナル注意ヲ與ヘ置キタルカ十日古野ハ館員ニ對シ同問題ハ左ノ通解決ヲ見タル旨報告セリ

二、九日古野赴寧ノ節情報(二分五)司長ヨリ本件解決方ヲ慫慂シ虚報流布ニ對シ聯合カ謝罪スルコト及佐々木ヲ更迭スルコトノ條件ヲ提出シタル處古野ハ之ヲ峻拒シ物分レトナリタルモ同人友人ノ斡旋ニ依リ結局同日古野ヨリ王正廷ニ對シ「中國側カ問題トセル或種報道ノ爲困難ナル事態ヲ發生セルコトヲ遺憾トシ聯合ト國民政府トノ圓滿ナル協調關係ヲ

回復スル爲ニ必要ナル措置ヲ執ララルニ至ルヘシ」トノ趣旨ノ釋明（爲念右ノ趣文書ニテ申入レタル由）ヲ爲シ王ヨリ之ヲ了承シ且聯合ニ對シ從來拒否セラレタル各種ノ便宜ハ直ニ回復セララルヘキ旨ヲ言明シテ本件ヲ解決シタル趣ナリ（尙佐々木ノコトハ前記古野ノ釋明中ニハ明言セサルモ外交部側ニテハ聯合カ自發的ニ之ヲ更迭スルモノト諒解シ居ルモノト認メラル）

三、尙外交部トシテハ右古野ヨリノ釋明ノ次第ハ別ニ公表セサルモ聯合ニ對スル便宜回復ヲ命令スル理由並黨部ニ對スル說明ニハ之ニ言及シタキ趣ニテ古野ノ諒解ヲ求メ古野

ハ之ヲ承諾セル由ナリ

四、因二十日漢字紙ハ聯合事件ニ關シ古野ヨリ外交部ニ陳謝シ外交部ハ聯合ノ發電ヲ許可スヘキ旨回答セル趣ヲ報道シ居レリ

北平、奉天、哈爾賓、吉林、閩島、濟南、青島、天津、漢口、福州、廣東、南京ニ轉電シ哈爾賓ヨリ齊々哈爾濱へ轉電セシム

上海へ轉報セリ

八 中国政情關係

800 昭和6年1月2日 在天津田尻總領事代理より 幣原外務大臣宛（電報）

南京引揚げ後の張學良の対日および対中央政
府態度について

天津 1月2日後発
本省 1月3日後着

第一號

南京引揚げ以來ノ張學良ノ態度ニ付テハ絶ヘス注意ヲ怠ラサルモ容易ニ懇談ノ機會ヲ得難キ實情ナル處各方面ノ情報及客年末來津セル江藤ト餘事ノ會見談等ヲ綜合スルニ概略左ノ通御參考迄

(一)滿洲ニ於ケル排日ノ噂ニ付テハ學良側近者ニ於テモ憂慮シ居ルカ如ク來津當時學良ヲシテ日本側記者團ヲ進ンテ引見シ夫レトナク釋明セシメタル程ニテ當地邦字新聞記事ニ對シテモ注意ヲ拂ヒツツアル處學良ノ腹ハ容易往電第五三號ノ通特ニ對日態度硬化シタル模様ナク從テ將來ハ兎ニ

角學良ノ歸奉後直ニ排日運動ノ勃發ヲ見ルヘシトナスカ如キハ餘リニ穿チ過キタル觀察ナルヘシ右ニ關シ學良カ江藤ヘノ談ニ依レハ「蔣介石トハ對内問題ニ付協議シタルモ排日態度ヲ執ルコト（ニ付）話セシコトナシ又日本新聞ニ現ハレタル排日ニ關スル諸事項ニ付テハ何故ニ日本ノ空氣ノ惡化セシヤ其ノ原因ト理由ヲ知ルニ苦シム右ハ自分ニ反感ヲ持ツ者ノ捏造宣傳ト見ルノ外ナシ固ヨリ自分カ第一ニ中國ノ福利増進ヲ計ルハ當然ニシテ之ヲ阻害スル日本ノ要求ニハ應シ得サル立場ハ諒解アリ度ク何レ近ク相當ノ代表者ヲ派シ日本トノ諒解ニ努ムル筈ナリ」トノコトニテ其ノ言語態度顔色ニ於テ特ニ反日的意圖ヲ含ミ居ルモノトハ見受ケラレサル由ナリ但シ之ヲ以テ學良ノ對日好意ノ表明ト見ルヲ得サルハ明カナルカ尙一方排日ノ噂カ單ニ日本新聞記者ノ想像ニ止マルヤ將又中央政府部内ニ於ケル一部蔣介石ニ慚ラサル分子（例ヘハ胡漢民一派）及奉天舊派安福系等カ絲ヲ引キ我方記者ヲ操リ出先陸軍ニ色目ヲ使ヒ居ルモノ